

自己評価シート

職員による自己評価

A環境面

- ・ 室内環境は昨年度の改善の結果が出ている。
- ・ 職員の配置については概ね満足との評価ではあるが、今後も支援の状況に応じての調整は必要と感じる。

B利用者への支援内容

- ・ 支援の成果が実感できない職員もいた。
- ・ カフェ活動について、コロナ禍以降は利用料金は口座引落しとなったため、当初の買い物の練習・お金のやり取りの経験をさせるという意義が薄れているところが課題である。

C関係機関との連携

- ・ 関係機関との連携については、利用者の所属する学校により情報の差が出る部分もあり、不十分と感じているスタッフが少なくない。

D保護者への説明責任・信頼関係

- ・ 支援内容や活動報告において、保護者と信頼関係の構築ができていると感じている職員が多数であった。

E非常時対応

- ・ 2次避難場所への移動経路など具体的な内容の確認が必要である。

保護者による評価

A環境面

- ・ 室内環境については昨年度同様に概ね満足との評価を得ている。
- ・ 職員配置、他児との関り等、人的環境への評価も昨年度より改善が見られた。

B利用者への支援内容

- ・ 本人のニーズに合った支援やその成果については概ね満足との評価を得ている。
- ・ 教室で実施する保護者カフェなど、保護者同士のつながりの場を今後検討していく必要はあると思われる。

C事業所からの情報発信

- ・ 活動報告や保護者向けの配布物などについては、保護者側のニーズも踏まえ、内容によっては紙以外の媒体での提供も導入する必要がある。

D非常時対応

- ・ 緊急時の通知、怪我や病気の対応については適切との評価を得ている。
- ・ 保険加入については周知不足を感じるもので、新年度開始時期はもちろんのこと、こまめにアナウンスする必要がある。

事業所内での分析

【共通点】

- ・ 環境面や支援内容については、保護者・職員双方の評価から適切に行われていると思われる。
- ・ 他機関との連携については、利用者のおかれている環境によって評価にばらつきが出ており、今後の課題の一つであるとの認識が必要である。

【相違点】

- ・ 支援内容、成果への保護者の評価が高かったのに対し、職員自身が支援の成果を実感できていない様子が見られる。

分析・検証してみた

事業所の強み

- ・支援内容については、保護者から多くの信頼・評価を得ていると考えられる。
- ・個別支援級・学校カウンセラーからの紹介からの教室へ利用の問い合わせも増えてきており、近隣の学校への認知度も上がってきている様子が見られる。
- ・施設面での環境については、保護者・職員とも適切であると理解されている。
- ・多くの職員がやりがいを持って支援にあたっていることはとても有意義なことである。

事業所の改善点

- ・保護者への支援報告については、前年度より改善しつつあると見られるが、今後も発信内容・頻度・方法の見直しをする必要がある。
- ・カフェ利用については、利用する意義をまず職員が共有し、その後利用方法等について改めて保護者へ伝えていく。
- ・事業所の加入している保険の内容については毎年、年度初め、休み明けなどで保護者へのアナウンスが必要である。

事業所の改善への取り組み

- ・個別、小集団、カフェ活動とある中で、それぞれの場での利用者の支援方法を職員で確認・共有し、支援内容の充実を図っていく。
- ・保護者への情報の発信については、発信する内容・発信方法を含めてより伝わりやすい方法を模索していく。
- ・感染症の状況を見ながら、対面を含む保護者向けの情報発信の場をできる限り設けていく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・支援内容について保護者から高い評価を得ていることは、当事業所、勤務する職員にとっても励みになる。その一方で実際に支援に携わる職員の評価は保護者と比較すると、それほど高いものではなかった。これらの結果を踏まえて、これからの当事業所は福祉サービスを提供する場として、利用者・保護者・職員の3方良しを目指して努力する必要があると考えられる。

事業所名

NPO法人レクタス三ツ境教室

担当者

久世 朋美